

用語説明

あ

【エリートツリー】

第1世代精英樹の中の優良なもの同士を掛け合わせて子供を育成し、その中からさらに優れた個体を選抜・検定したものを第2世代精英樹といい、これら第2世代以降の精英樹のことを「エリートツリー」という。

か

【拡大造林（かくだいそうりん）】

主に広葉樹からなる天然林を伐採した跡地や原野などを針葉樹中心の人工林(育成林)に置き換えること。針葉樹は比較的成長が早く、早期に利用できることから、昭和30年代から40年代に多く行われた。

【架線集材（かせんしゅうざい）】

空中に張ったワイヤーロープを使って、伐採した木を林道脇などに集める方法のことで、急傾斜地での木材搬出が可能。

【間伐（かんばつ）】

育成段階にある森林において樹木の混み具合に応じて、育成する樹木の一部を伐採（間引き）し、残った木の成長を促進する作業をいう。間伐を行い適正な密度を保つことで、森林環境保全に繋がる。また、間伐された木材は建築材や土木用材として利用することができる。

【原木（げんぼく）】

森林で伐採し、建築材や家具材などの原料や材料に使いやすいように、一定の長さに切り揃えた丸太のこと。

【原木市場（げんぼくいちば）】

森林組合や林業事業者などが切り出した原木（丸太）を丸太の状態で陳列し、販売する市場のこと。

【構造材（こうぞうざい）】

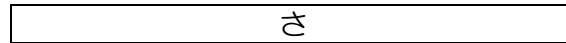
屋根や床の重さ、あるいは荷重など構造にかかる力を負担する部材のことをいい、柱・梁などのこと。

【混交林（こんこうりん）】

性質の異なった2種類以上の樹種（針葉樹と広葉樹など）が混じって生育する森林のこと。

【コンテナ苗（こんてななえ）】

専用の育成容器を用いた培地付きの苗木で、植付作業やその後の下刈作業等の効率化が期待されている。



【材積（ざいせき）】

立木または造材された丸太や製材された木材の体積のこと。

【作業路網（さぎょうろうもう）】

林道などから分岐し、立木の伐採、搬出、造林などの林内作業を行うために作設する作業道の路網のこと。

【下地材（したじざい）】

内装材などを取り付けるための部材（合板など）のこと。

【集成材（しゅうせいざい）】

断面寸法の小さい板材などを接着剤で再構成して作られる木質材料のこと。

【樹種（じゅしゅ）】

スギ、ヒノキ、マツ、クヌギなどの樹木の種類のこと。

【主伐（しゅばつ）】

利用できる時期（伐期）に達した立木を伐採すること。

【所有形態（しょゆうけいたい）】

森林の所有について、個人有林のほか、県有林、市町村有林、集落有林、財産区有林等のいずれに該当するかを区分するもの。

【人工乾燥材（じんこうかんそうざい）】

乾燥機を用いて人工的に乾燥させた木材のことで、英語で Kiln Dry Wood と言い、略称で KD 材と表示する。

【人工林（じんこうりん）】

天然（自然）林に対する語で、木材生産のために人が苗木を植えて成立した森林のこと。

【森林経営計画（しんりんけいえいけいかく）】

森林経営計画制度とは、森林所有者等が5年間の合理的な森林施業及び保護の計画を作成し、市町村等の認定を受ける制度。認定された森林経営計画に基づき、間伐などの作業が集

約化されることで、計画的な森林整備並びに合理的な森林経営が期待される。

森林所有者等は単独又は共同で計画を作成することができ、認定を受けた計画に基づいて行われる森林施業に対しては、補助金、税金などの面で支援措置が講じられている。

【森林施業（しんりんせぎょう）】

目的とする森林を育成するために行う造林、保育、伐採等の一連の森林に対する人為的行為を実施すること。

【森林施業プランナー（しんりんせぎょうぷらんなー）】

集約化施業を推進し、森林所有者の合意形成を図って森林経営計画の作成に中心的・直接的に携わる技術者のこと。

【森林作業道作設オペレーター（しんりんさぎょうどうさくせつおぺれーたー）】

現地の条件に応じて森林作業道を作設できる技能者のこと。

【森林の有する多面的機能（しんりんのゆうするためんてききのう）】

私たちの生活と深くかかわっており、具体的には「生物多様性保全」、「地球環境保全」、「土砂災害防止機能／土壌保全機能」、「水源かん養機能」、「快適環境形成機能」、「保健・レクリエーション機能」、「文化機能」、「物質生産機能」のことを示している。

●生物多様性保全（せいぶつたようせいほぜん）

様々な生物が相互の関係を保ちながら、本来の生息環境の中で繁殖を続けている状態を保全する機能のこと。

●地球環境保全（ちきゅうかんきょうほぜん）

温暖化の原因である二酸化炭素の吸収や蒸発散作用により、地球規模で自然環境を調節する機能のこと。

●土砂災害防止機能／土壌保全機能（どしゃさいがいぼうしきのう/どじょうほぜんきのう）

下層植生や落枝落葉が地表の浸食を抑制するとともに、森林の樹木が根を張り巡らすことによって土砂の崩壊を防ぐ機能のこと。

●水源かん養機能（すいげんかんようきのう）

湧水や洪水を緩和するとともに、河川流量を一定以上に維持し、良質な水を供給する働きのこと。

●快適環境形成機能（かいてきかんきょうけいせいきのう）

蒸発散作用等による気候を緩和、防風や防音、樹木の樹冠による塵埃の吸着、ヒートアイランド現象の緩和などにより、快適な環境形成に寄与する機能のこと。

●保健・レクリエーション機能（ほけん・れくりえーしょんきのう）

森林浴、レクリエーションなどの場としての利用により、人々に安らぎや癒しを与える機能のこと。

●文化機能（ぶんかきのう）

文化及び教育活動に寄与する機能のこと。

●物質生産機能（ぶっしつせいさんきのう）

木材の生産のほか、各種の抽出成分、きのこなどを提供する機能のこと。

【森林蓄積量（しんりんちくせきりょう）】

森林を構成する樹木の幹の体積のこと。

【森林保育（しんりんほいく）】

植林、下刈り、枝打ち、除伐、間伐など、主に森を育てるために行う作業のこと。

【製材所・木材加工所（せいざいしょ・もくざいかこうしょ）】

原木等を建築や家具などに使う角材や板材に加工する事業所のこと。

た

【天然乾燥材（てんねんかんそうざい）】

数カ月放置し、自然に乾燥させた木材のことで、英語でAir Dry Wood と言い、略称でAD材と表示する。

な

【内装材（ないそうざい）】

建物の内装に使用する、直接目に触れる部分の表面部材のことをいい、床材（フローリング）、建具などのこと。

【生材（なまざい）】

乾燥していない木材のことで、英語でGreen Wood という。

は

【羽柄材（はがらざい）】

構造材より断面寸法の小さい部材のことをいい、筋交い、間柱などのこと。

【葉枯らし材（はがらしざい）】

伐採した木を、枝葉をつけたまま山林に数カ月放置して、自然乾燥させた木材のこと。

【バイオマス】

生物資源（bio）の量（mass）を表す概念で、一般的には再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの。そのなかで、木材からなるバイオマスのことを「木質バイオマス」と呼ぶ。

【複層林（ふくそうりん）】

樹齢や樹高の異なる樹木で構成され、樹冠の部分が何層にも分かれている森林のこと。

【プレカット加工（ぶれかっとかこう）】

建築用の材料を事前に工場で切断したりする工程のことをいう。

【フォレスター】

森林の取扱い等の計画作成や路網作設等の事業実行に直接携わり、指導等を行うなどの実務経験を基礎とし、長期的視野に立ち、目標をもって森林づくりを計画し、的確に指導できる技術者のこと。

【フォレストマネージャー】

高い生産性・安全性を確保しながら林業の現場作業ができる複数の作業班を統括する技能者（統括現場管理責任者）のこと。

【フォレストリーダー】

作業班員を指導し、間伐等の作業の工程管理ができる技能者（現場管理責任者）のこと。

【フォレストワーカー】

林業作業に必要な基本的な知識、技術・技能を取得し安全に作業を行いうる者（林業作業士）のこと。

【保残木施業（ぼざんもくせぎょう）】

一定量の伐採を継続して高品質の大径木を育成することをいう。

ま

【無垢材（むくざい）】

一本の原木から角材や板を直接必要な寸法に切り出した木材のこと。

【木材素材生産（もくざいそざいせいさん）】

森林などに生育している樹木を伐採し、枝葉や根元部分を取り除き、原木を生産すること。

【モザイク伐採（もざいくばっさい）】

多様な林齢や樹種の森林をモザイク状に伐採すること。モザイク状に伐採することで、土砂災害防止機能や水源かん養機能などの森林の有する多面的機能を維持することができる。

【モルダ加工（もるだかこう）】

木材の仕上げ工程の一つで、製材後のざらついた木材などの表面をモルダ―機械により、平らでなめらかにする工程のことをいう。

ら

【林家（りんか）】

林地の所有、借入などにより森林施業を行う権原を有する世帯のことを示します。2000年世界農林業センサスでは、これらのうち1ha以上の山林を所有、借入などにより保有するものを「林家」としている。

【林齢（りんれい）】

森林の年齢のこと。人工林では、苗木を植えた年を1年生とし、以後、2年生、3年生と数えるのが一般的である。

【列状間伐（れつじょうかんばつ）】

選木基準を定めずに単純に列状に間伐する方法のこと。高性能林業機械の導入による作業効率の向上、選木作業の省力化等による間伐経費の削減に有効な手段である。

【路網密度（ろもうみつど）】

作業路網の距離を森林面積で割った数値のこと。

（用語の定義）

【市産材（さがしさんざい）】

本市の森林から産出され、市内で加工された木材のことをいう。

【A材（えーざい）、B材（びーざい）、C材（しーざい）、D材（でいざい）】

木材を品質（主に曲がりなどの形状）や用途によって分類する際の通称のこと。A材は直材で建築用材、家具材など市場性が最も高い質材、B材は小曲がり材で土木用材など、C材は大曲がり材で集成材、合板用材、チップ材（製紙用・エネルギー用）など、D材は伐採・造材の際に発生する端材でチップ材など利用価値が最も低い質材のことをいう。